

(広報やながわ 8 月号より)

A photograph showing a large, muddy river or floodwater flowing over a road, with trees and vegetation on the right bank. The water is a thick, brownish-yellow color, indicating it is carrying a lot of sediment. The road is partially submerged, and the water appears to be moving quickly. On the right side, there are green trees and bushes. In the background, a bridge or overpass is visible across the river. The sky is overcast and grey.

広報やながわ 8月号より)

## あふれる水救助阻む

柳川 屋根の上に住民孤立

青空はいつまでも。九州で猛勢を起し続ける大雨は14日午前、うねる潮を再び人の暮らしの道で吐き出した。縁に包まれた山あいの村では、山肌が雪を打出し、土壌は寸断され、平地の海に化し、救助活動は困難を極めた。穂かたな週末の朝二、雨で変化した暗灰色の雲。先の豪雨から再起を図る先にまた被害に見舞われた住民たちは、肩を落さず、折るように空を見つめた。「一面蒼蒼

救助の  
ふれる水が  
福岡県  
里の無職  
ん(84)方

福岡県内

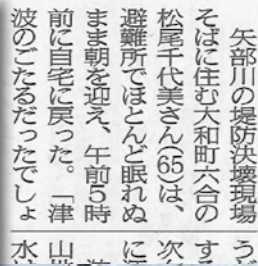
同市では午前6時すぎ、黒木町土庫の民家で土砂崩れが起き、夫婦

街、暮らし 濁流がのむ

■ 2

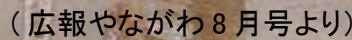


(広報やながわ 8 月号より)

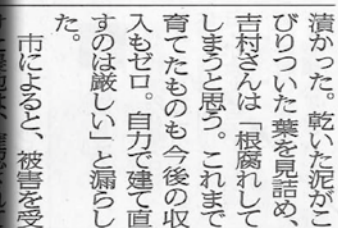


「津波のごたる…」

柳川 農作物打撃生活不安も



イチゴの苗を植える予定だったハウスは骨組みごと流され、今月中に収穫予定だったイチゴも50%



あたる約380秒とい  
なるのか…」と肩を落  
した。

漬物店を始めて約40年になる森田祝さん(73)宅でも、漬物用の一年分の塩や、仕込んだばかりの高菜漬け約100kgが水に漬かった。「昭和28年以来的大水で仕方がないことだと、どれだけの損失には白星を飾った。

この報告書は、当社の被災から復旧までの記録をまとめたものである。

## ◆ 目 次 ◆

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| はじめに                        | 5  |
| 1. 九州北部豪雨とその被害              | 6  |
| (1) 福岡県の被害状況                |    |
| (2) 柳川市の被害状況                |    |
| (3) 当日の当社の動き                |    |
| ＜コラム＞ 証言① その時社長は 安永 修       |    |
| 2. ヤスナガの被害                  | 10 |
| (1) 建物の被害状況                 |    |
| (2) 機械設備の被害状況（組織別）          |    |
| (3) 棚卸資産の被害状況               |    |
| (4) 備品・消耗品の被害状況             |    |
| (5) 推定被害額                   |    |
| (6) 社員の被災状況                 |    |
| ＜コラム＞ 事前対策                  | 20 |
| ■ BCP策定                     |    |
| ■ 設備関連                      |    |
| ■ ソフト関連                     |    |
| ■ 資金関連                      |    |
| ■ 教育関連                      |    |
| 3. 初動対応                     | 21 |
| (1) 社員への連絡                  |    |
| (2) 社員の参集                   |    |
| (3) 取引先への連絡                 |    |
| (4) 復旧作業方針                  |    |
| ＜コラム＞ 証言② その時社員は 入社2年 劉 翰文  |    |
| 4. 復旧作業                     | 23 |
| (1) 社員向け対応                  |    |
| (2) 取引先、協力企業向け対応            |    |
| (3) 復旧作業                    |    |
| (4) 財務、保険対応                 |    |
| (5) 地域貢献                    |    |
| (6) その他                     |    |
| (7) 災害復興までのフロー              |    |
| (8) 場所別・組織別 復旧までの日別作業内容     |    |
| ＜コラム＞ 証言③ その時社員は 入社8年 原田 義光 |    |
| 5. 社内アンケートの結果から             | 31 |
| (1) 清掃作業について                |    |
| (2) 連絡について                  |    |
| (3) 福利厚生について                |    |
| (4) 事前準備について                |    |
| (5) ボランティアについて              |    |
| (6) お取引先について                |    |
| (7) 保険対応について                |    |
| (8) 社員たちの声                  |    |
| 終わりに                        | 40 |
| 追記 社員からの感謝の言葉               |    |
| ＜資料編＞ 写真 アンケート 参考文献         |    |





## はじめに

平成 24 年 7 月 11 日から降り続けた激しい雨は河川を増水させ、7 月 14 日午前 8 時 50 分 ついには当社より 250m ほど北にある沖端川堤防の決壊へと繋がりました。

この直後から、濁流が流木、ゴミ等とともに一気に当社へと流れ込み、建物、機械設備、車輛、そのほとんどが浸水しました。浸水はその日のうちにほぼ収まりましたが、濁流が運び込んだ流木、ゴミ等は、大量の汚泥とともに工場内、事務所にまで流れ込んでいました。

その日から約 2 週間、様々な方々からのご協力、ご支援を頂きながら、通常の 8 割程度まで復旧し、ようやくお客様にご迷惑をおかけしない程度の業務を開始できるまでになりました。本格的な復旧は 9 月初旬となりましたが、ご協力、ご支援を頂いた方々のお力添えがなければ、これほど早期の復旧は不可能であったといっても過言ではありません。

あの猛暑の中、ともに汗や汚泥、悪臭にまみれながら、私たちと一緒に復旧活動に当たって頂いた方々には、本当に感謝の気持ちで一杯です。また、機械設備、製品、材料等が浸水したため、多くのお客様にも多大なるご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

この報告書は、被災から本格的な復旧の目途が立つまでの平成 24 年 7 月 14 日から同月 28 日までの復興の記録です。

社員全員にアンケートをとり、復旧のためにどんなことをやったのか、改善すべき点はないか、どんなものが役に立ったのか等をまとめたものです。今回私たちが経験した一連の出来事を、災害から得た多くの教訓を、広く活用して頂きたいと思っております。

最後に、災害復旧に携わり、早期の復興に向け、多大な御尽力、御助力頂いた多くの方々に、心より感謝申し上げます。



清掃作業中の社員とともに

株式会社ヤスナガ  
代表取締役 安永 修



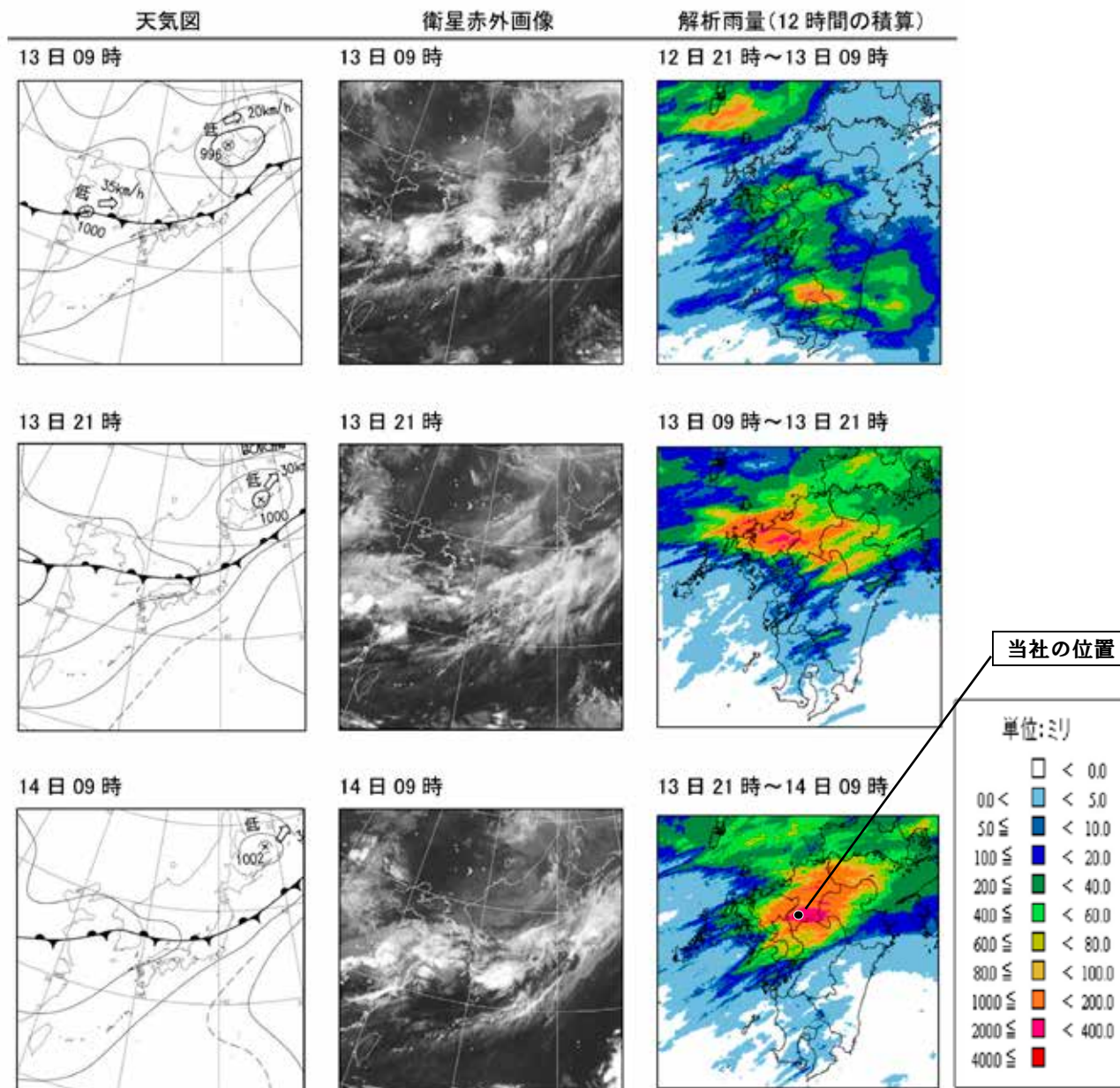
# 1. 九州北部豪雨とその被害

平成 24 年 7 月 11 日から 14 日にかけて九州北部を中心に降り続けた激しい雨は、「これまでに経験したことのないような大雨」となり、九州北部地方に大きな被害をもたらしました。

気象庁は、この豪雨を「平成 24 年 7 月九州北部豪雨」と命名し、後日内閣府により激甚災害に指定されました。

## (1) 福岡県の被害状況

下の図は、今回の九州北部豪雨における降水量の推移である。当社のある福岡県柳川市周辺は、13 日から 14 日にかけての 12 時間に 200 ～ 400 mm もの集中豪雨に見舞われていることがわかる。





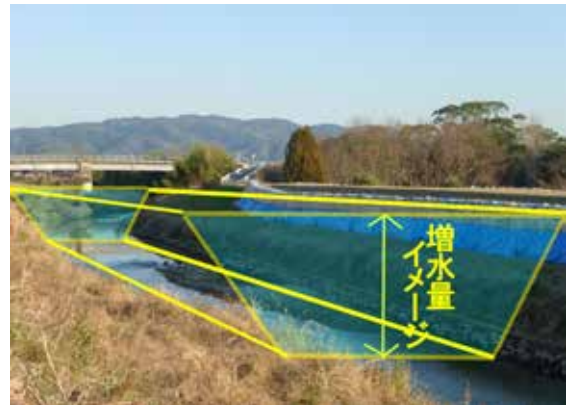
矢部川は、福岡県では筑後川、遠賀川に次ぐ一級河川。沖端川はその支流で、当社はこの両河川に挟まれ立地している。今回の水害は、矢部川1か所、沖端川2か所の堤防決壊により引き起こされた。当社は、いこいの森隣の沖端川決壊現場から、直線距離で250Mほどの所に位置しており、今回当社を襲った濁流は、普段は下の写真のように水量の少ない沖端川の決壊によるものであった。

九州北部豪雨による河川の決壊箇所



## ■ 沖端川

平常時



決壊時



## ■ 矢部川



平常時



決壊時

## (2) 柳川市の被害状況

福岡県災害復旧本部及び柳川市がまとめた平成 24 年 10 月 5 日現在の被害状況及び被害額は、以下の通りである。

### 【被害状況】

| 被害種別 | 件 数               | 内 訳 (福岡県)                                                           | 内 訳 (柳川市)                                                  |
|------|-------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 人 的  | 21名               | 死者：5名、重傷：7名、軽傷：9名                                                   | 死者：1名                                                      |
| 家 屋  | 8,014棟            | 全壊：75棟、半壊：433棟、一部損壊：125棟、<br>床上浸水：1,139棟、床下浸水：4,955棟、<br>非住家：1,287棟 | 床上浸水：376棟、床下浸水：952棟、<br>非住家：677棟                           |
| 道 路  | 2,456件            | 損壊：1,160件、埋没：337件、<br>冠水：959件                                       | 損壊：16件、埋没：2件、<br>冠水：3件                                     |
| 橋 梁  | 45件               | 流出：18件、損壊：27件                                                       |                                                            |
| 河 川  | 950件              | 溢水：179件、決壊：111件、<br>施設・設備損壊：632件、内水氾濫：28件                           | 溢水：25件、決壊：2件<br>(中山・立花いこいの森公園北、<br>六合・津留橋上流右岸)、<br>内水氾濫：6件 |
| 土 砂  | 1,177件            | がけ崩れ：1,134件、土石流：14件、<br>地滑り：29件                                     |                                                            |
| 農 業  | 1,328ha<br>4,093件 | 作物等：1,328ha<br>畜産・農地・農業用施設等：4,093件                                  | 被害面積3,310ha<br>(うち農地被害：12.3ha)<br>養鶏800羽、ビニールハウス倒壊15件      |
| 森林林業 | 1,521件            | 林道：1,045件、林地等：476件                                                  |                                                            |
| 水産業  | 160件              | 漁船：65隻、施設等：95件                                                      | 漁船流出等：42隻、浮桟橋：14箇所、<br>ホイストクレーン：6基<br>係船柱：1300本、海苔小屋：58棟   |

### 【被害額】

|                          |         |          |
|--------------------------|---------|----------|
| 道路施設                     | 138億円程度 | —        |
| 河川施設                     | 230億円程度 | 2.7億円程度  |
| 砂防施設                     | 2億円程度   | —        |
| 農業（農作物、農地・農業用施設等）        | 162億円程度 | 11.6億円程度 |
| 森林・林業（林道、林地等）            | 87億円程度  | —        |
| 水産業（水産施設等）               | 7億円程度   | 2.3億円程度  |
| 教育施設、文化財                 | 6億円程度   | 0.4億円程度  |
| 商工業                      | 32億円程度  | 9.0億円程度  |
| その他（公用施設、公営住宅、上・下水道、公園等） | 15億円程度  | 0.9億円程度  |
| 計                        | 679億円程度 | 26.9億円程度 |

## (3) 当日の当社の動き

被災当日、当社はどのように被害に巻き込まれていったのか。

平成24年7月13日柳川市では雨脚が強まり、7時10分からの24時間雨量が281mmに達しました。上流で降った大雨が、矢部川とその支流である沖端川に流れ込み、水位が上昇。翌14日は土曜日でしたが、当社は通常の営業日でした。そしてこの日、当社は創業以来経験したことのない水害に突如襲われたのです。

ここでは、当社が被災した7月14日土曜日早朝からの一日間を振り返ります。



事務所2階から新工場の駐車場を望む（7/14）

## <コラム>

### 証言① その時、社長は・・・ 「1週間で復旧するぞ！」

私は日頃、朝 6 時半ごろに出社しています。被災当日となった14日土曜日の朝も同時刻には出社し、後から出社してきた工場長他、幹部4人で、その日の対応策を協議していました。大変激しい雨だったので、午前7時半過ぎ社員の自宅待機を臨時休業に切替え、社員全員に連絡をした後、私も一旦、帰宅することにしました。会社の裏手250Mのところを流れる沖端川が決壊したのは、そのわずか 30 ～ 40 分後のことでした。

あの時、もし臨時休業の連絡が遅れていたら、社員のほとんどが車で出社していたと思います。もしそうだとすれば、決壊の時間からいって社員の車は全部、濁流にのまれていました。その後の復旧作業のこと等を考えると、彼等の足を守ることが出来たのは、本当に・・・不幸中の幸いでした。

私は決壊した時、自宅で待機していましたが、みるみるうちに自宅にも水は押し寄せ、あっという間に道路が冠水、周囲からは完全に孤立してしまいました。会社はどうなっているのか？ 私は何度か会社の近くまで歩いて出社を試みましたが、場所によっては身長程度もある水位に阻まれて断念せざるを得ませんでした。会社に戻れたのは、同日の夕方6時過ぎのことです。太腿位まで水に浸かりながら、ようやく会社にたどりつき、被災状況を目にしました。まさに想定外の被災、一瞬、私は笑うしかありませんでした。でも、次の瞬間からはもう、「一日も早い復旧」のことしか考えなかったと思います。会社がどうかなるのではないかとという様な悲観的なことは、不思議と一切考えなかったし、第一、考えている暇もありませんでした。自宅に孤立していた半日間で、保険会社や機械メーカーに携帯で連絡しながら、自分自身、既に腹が決まっていたのだと思います・・・。良い意味で、私自身、直面した問題をどう克服するか？ということに「集中」していたのではないかと思います。被災翌日「1週間で復旧するぞ！」と皆にも告げました。

実際には困難を極めた清掃作業を終えたのは、およそ2週間後のことでしたが、8月初旬には、ボランティアの皆様方等、多くの支援にも支えられて、ほぼ通常業務の状態に会社を戻すことができました。被災の1か月前、水害を対象とした保険に入っていたことも幸いしたことは間違いありません。保険の加入は精神的にも、必ず復旧できる！という力強い後ろ盾になったと思います。

妻が後日、言うんですよ。私が復旧作業に入った翌日から、目を覚ますと『今日は、復旧〇日目！と大声で言いながら起きていた』って。私自身は覚えていないんですが、そうらしいんですよ。とにかく、一日も早く！という気持ち一心だったのでしょう。

ズボンのベルトは復旧作業中、かなり「すかすか」にはなりましたが、全然気づきませんでした。唯々ひたすらに・・・走り続けた2週間だったと思います。